

会 議 録

会議名 (附属機関等名)		第 25 回 (令和 4 年度 第 2 回) キセラ川西エコまち協議会	
事務局 (担当課)		土木部 公園緑地課	
開催日時		令和 5 年 2 月 3 日 (金) 15 時 00 分 ~ 17 時 00 分	
開催場所		川西市役所 4 階 庁議室	
出席者	委員	加藤、山中、松村、武田、安田、黒田、松塚、辻田、中家、中垣、畑中、飯田、人見、阪上、小西、宮定 (敬称略)	
	その他	(オブザーバー) 東口 (敬称略)	
	事務局	五島、足立、鈴江、古山、三木 (調査機関) 絹原、中川、杉山	
傍聴の可否		可	傍聴者数 1 人
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
会議次第		1. 開会あいさつ 2. 報告 (前回からの動き) ① 建築行為等の手続条例運用状況 (令和 4 年 11 月 30 日時点) ② 第五回キセラ川西エコまち建築賞授賞報告 ③ 環境学習・普及啓発 ④ みどり部会 効果検証アンケート 3. 議事 ① キセラ川西せせらぎ公園 利活用ガイドラインの改定について ② 「キセラ川西低炭素まちづくり計画」の評価と今後に向けて 4. キセラ川西エコまち協議会の振り返り	
会議結果		別紙審議経過のとおり	

審議経過

<開会>

- ・ 会議の成立、公開、資料、本日の出欠者について事務局より確認した。

1. 開会あいさつ

○土木部長

- ・ 加藤会長より話があったが、コロナ後、リモートでの開催が続く寂しい感じもあったが、改めて集まり会議が出来ていることを嬉しく思っている。
- ・ 本日をもって、当協議会が一定の区切りを迎える。これまで10年間、長きにわたって会議を運営いただいた加藤先生、山中先生、はじめとする委員のみなさまには心より感謝を申し上げたい。
- ・ みなさんの机の上に川西市の広報誌2月号を配布している。キセラ川西のまちづくりが区切りを迎えたということで、特集を組んでいただき、加藤会長と越田市長の対談を掲載させていただいている。ご覧いただければと思う。
- ・ 今回の特集記事を見て、改めて、キセラ川西の歴史を感じるとともに、この協議会が終わってもキセラ川西のまちがなくなるわけではなく、これからの取り組みが行政にとっては大事になってくる。
- ・ 今後、キセラ川西のまちがさらに成熟したまちに成長させていくのも我々の使命である。この事業、この協議会で培ってきた経験や知見を、市域全体にどの様に活かして行けるのかが大きな課題と思っており、それに向けてしっかり努力していく所存であるので、委員のみなさまにおかれましては今後ともご指導賜れます様をお願い申し上げたい。本日は、どうぞよろしくお願い致します。

2. 報告

○事務局

・ 資料説明

- ① 建築行為等の手続条例運用状況（令和4年11月30日時点）（資料1-1）
- ② 第五回キセラ川西エコまち建築賞授賞報告（資料1-2）
- ③ 環境学習・普及啓発（資料1-3）
- ④ みどり部会 効果検証アンケート（資料1-4）

○会長

- ・ みどり部会の効果検証アンケートが高評価の結果が示された。公園緑地課が実施したということだと思うが、公開についてはみなさんに納得いただいた上で問題ないと思うが、公表させていただくということでよいか。
- ・ 以上で、前回からの動きについて4つのご報告を紹介いただいた。もし、ご質問あればお願いしたい。なければ議事に移りたい。

3. 議事

- ①キセラ川西せせらぎ公園 利活用ガイドラインの改定について

○事務局

・資料説明

キセラ川西せせらぎ公園 利活用ガイドラインの改定について（資料 2-1）

○会長

・主な点として8点、修正いただいたということである。新しい利活用ガイドラインをキセラ川西の公園等の活用について、新しいルールとしたいので、ご承認いただきたい。ご質問を含めてご意見があればお願いしたい。

○副会長

・P.4の「出来ないこと」について主語が異なっているのではないか。「出来ること」は市民が出来ることとなっており、「許可できないこと」の主語は市となっている。主語が違っているので、文章として統一を検討されてはどうか。

○委員

・ご指摘はその通りかと思う。妙案がすぐに浮かばないが、検討したい。

○会長

・ルールを主語には出来ないが、ルールという主体があるとすると、ルールでは出来ることと出来ないことを書いているということかと思う。ルールが決めている「できること」、ルールが決めている「出来ないこと」という整理はできると思うが、市民不在であるというご指摘でもあると思う。

○委員

・そうしましたら、P.4の下段について「ただし、以下に該当する内容については、申請できません。」として、主語を市民としてはどうか。『許可「できないこと」』を『公園では「できないこと」』とすると、これも市民ができないことで揃うので、概ねそのような方向で修正されてはどうか。問題あれば事務局で検討いただきたい。

○副会長

・P.9について、減免とは何の減免か。

○事務局

・P.9上の文章に記載している通り、イベントの内容等に応じた使用料金の減免である。

・P.4については、先ほどのご指摘・アドバイスを受けて、しかるべく修正したい。

○会長

・それは訂正の上、条件付き承認としたい。今後、ガイドラインの改定の必要が出てきた場合については、適宜、市で検討していくということか。

○事務局

・みどり部会としては今回で最後の改定となる。今後に関しては、一部使用料や減免制度などが変わる可能性があるので、それに関しては市の方で変えて行くとみどり部会でご説明している。

○会長

・主旨は分かるが、制度上はどのようになるのか。市が単独で、専権事項として改定出来るのか。

○事務局

・条例に基づいて使用許可に対して料金表が定められており、それに基づいて使用料を徴収する。

○会長

・料金をいくりにするなど、決め方のルールを市単独で決められるのか。

○事務局

・全庁的に使用料の見直しが既に始まっている。今回、その中に公園の使用料については協議事項の中には含まれていない。

・今後、使用料の改定についても市の中で議論していくものであると考えている。市には使用料見直しのガイドラインというものもあるので、それらを参考に近隣の状況も確認しながら改定していきたいと考えている。

○会長

・市が決めるのは良いが、今回は市長から委嘱された附属機関であるこの協議会の中で諮ってきた内容について、今後流れが変わることはいいのか、という質問である。

○事務局

・今回のガイドラインについては、公園を利活用される方がこれを見て使いやすいというのが一番の主旨であると考えている。

・使い方の中にも利用料金が発生するものについては、P.7に記載しているように「使用料金は、川西市都市公園条例での定めに基づいて算定します。」となっている。料金設定そのものは、このガイドラインについても「川西市都市公園条例」を準用している。今後、この点について市の中で協議する中で、変更が生じればガイドラインも変更する流れになると考えている。

○会長

・結構だが、ここで議論しているという事は、ここを使う人や協議会に近い人たちが意見を出して決められる構造になっている。ところがそれが市長専権事項となると、一般、全市の方の意見というものを反映せざるを得なくなる。つまり、ここだけ特別扱いは出来なくなる。

・という恐れがあり、いつの間にか不利益が出てくるのではないかと、ここに関与していた我々としては杞憂がある。一般行政事項になるとその様なケースがたくさんある。そのメリットが無くなる心配もある。どこかに意見を聞いて決めて行くのであれば良い。

○委員

- ・加藤先生がおっしゃるとおりかと思う。みどり部会でも重点的に意見をいただき、より良いガイドラインにして来た、その機能が担保されなくなるのは、市としては損失であるということを知りたい。
- ・市として定められるガイドラインであり、市で改定して行くのはその通りであるとは思いますが、改定のあり方というのは、今後の大きな課題かと思う。

○会長

- ・ルールづくりというのは、変更に関するルールを決めておかないと、無責任なものになるというのが通常であるので、認識いただければと思う。
- ・それでは、次の議題に移りたい。

② 「キセラ川西低炭素まちづくり計画」の評価と今後に向けて

○事務局

- ・資料説明
「キセラ川西低炭素まちづくり計画」の評価と今後に向けて（資料 2-2-1、2-2-2、2-2-3）

○会長

- ・評価と今後に向けてという議題である。資料 2-2-1 の赤字で修正されている箇所について、まずご確認ください。
- ・今回の修正の元になっている資料は資料 2-2-3 の前回協議会での意見等への対応である。
- ・評価の書き方がアンケートの部分については他と異なっている。ちなみに、P.3 みどり分野の方針を確認すると「みどりを育み、感じられるまち」が掲げられていて、その実行計画としては、「まちの魅力向上に貢献する緑地、緑化の整備」、「緑地管理機構や管理協定制度の活用等」という2つの目標があがっている。評価するにあたって、ここだけアンケートで代用している。という構造になっている。これが「緑地管理機構や管理協定制度の活用等」に近いものかも知れないが、ソフトの分野でアンケートが書かれている。例えばP.13の4-9などで、市民アンケート結果を評価の主体となっている。
- ・効果検証アンケートがそのまま評価基準になっているが、これで良いのか。

○事務局

- ・あくまでもこれは計画の評価の為のアンケートでなく、今後のよりよい公園の在り方を検討するためにアンケートを実施したものであるため、参考として掲載させていただいている。よって、評価としての扱いではない。

○会長

- ・この評価は、政策目標に対してどうか、という話である。それを総括としてまとめているものである。なので、ここだけ特別な扱いとなっている、ということを知っておく必要がある。
- ・あくまでも参考で、これで評価しているのではない、ということか。

○事務局

- ・このアンケート結果をもって評価をしているという認識ではなく、あくまでも参考という扱いでこのような整理を行っている。

○会長

- ・となると、他の部会も参考として掲載して欲しい、という話になりかねないのではないか。
- ・形式としては、取り組み、達成状況、そして理由がある。という書き方で、計画の達成状況と評価をまとめており、他の所は全てその様になっているが、ここだけ異なっている。総括なので、他の所とレベルを合わせないといけないのではないか。

○副会長

- ・これは多分、「4-9」となっているのが良くない。むしろ「4-8」の中に入るのでははいか。あくまでも「市民参加による公園の維持管理」という所の参考データではないか。
- ・なのでこれは、評価項目としての取組ではなく、「4-8」を補強するための参考資料というイメージではないか。なので、枠の中に入れ込んではどうか。

○会長

- ・おっしゃる通りで、非常に有効なご意見をいただいた。

○事務局

- ・理解出来た。ありがとうございます。

○会長

- ・この部分については、みなさま再度確認いただければと思う。全体的に、PDCA サイクルでいうと、PDC までは実施した。最後のアクションは今後に向けてということで、市にお願いしているということになる。それぞれの分野ごとに忌憚のないご意見をいただきたい。

○副会長

- ・(エネルギー分野) 特に意見はない。

○委員

- ・(交通分野) 特に意見はない。

○会長

- ・これで良ければ、さきほどの1点だけ分かりやすく修正いただき、ご了承いただければと思う。ありがとうございました。以上で議事は終了となる。
- ・それでは、次第4の「キセラ川西エコまち協議会の振り返り」に移りたい。

4. キセラ川西エコまち協議会の振り返り

○事務局

- ・資料説明

キセラ川西エコまち協議会の振り返り（資料 3-1）

○会長

- ・約 10 年に渡る協議会であった。10 年間の役目を終えるという事になる。委員みなさまに振り返っていただき、コメントをいただきたい。

○副会長

- ・協議会のみなさま、長きに渡りご協力いただきありがとうございました。
- ・11 年の振り返りを見て、懐かしい想いを持っている。当初、川西中央北地区と呼んでいて、中央なのか北なのか曖昧だった。これは事前にまちの名前をつけよう、と提案したのは私で、それで公募をしていただき、非常に良い名前が寄せられて「キセラ川西」という名前になり、大変嬉しく思った事を今でも覚えている。
- ・また、エコまち建築賞にも関わらせていただき、色々な低炭素につながる、緑豊かな敷地に恵まれた建物をたくさん見させていただいた。
- ・今後のことになるが、エコまち建築賞もなくなる。広報誌に掲載されているとおり、10 年間やったことが全市に波及して行くことが望ましい。個人的な提案としては、「キセラ川西エコまち建築賞」の名前をそのまま全市に展開いただくと、現在は「キセラ川西」は地区の名前であるが、エコなまちづくりの名前になっていくと思う。
- ・緑豊か、低炭素、交通、防災、エネルギーなどまちづくりの色々な分野において、10 年間まちづくりをやってきたということが記念として「キセラ川西」という言葉に集約して行くような仕組みがあっても良いのではないか。
- ・今は、まちの名前であるが、それがまちづくりの名前になって行く、そういう夢を持っている。
- ・例えば、大阪府でも「環境にやさしい建築賞」というのを持っている。ぜひ、川西市においてもこの賞を全市に広げていただいてはどうか。というのが私の思いである。

○会長

- ・貴重な提案をありがとうございました。

○委員

- ・交通部会を担当した。個人的にもできなかったことの方が多かった。交通は、何かと何かを繋ぐ役割がある。人と人、場所と場所を繋ぐという事である。
- ・キセラ川西の位置は、川西市内では北部丘陵地と南部の平らな地域をつなぐ境界で、中心市街地や池田市と繋ぐなど色々な結節点として潜在的な力を持っている場所であると思っている。また、これからもその様な存在であり続けるであろうと思う。
- ・その様な所については、検討したが殆ど何も上手く出来なかった。とは言うものの一方で、最低限のことは出来たと思う。優良可でいくと可かなと自己評価をしている。
- ・ただ、これから交通の状況は抜本的に変わって行くと予想されている。MaaS (Mobility as a Service: 従来の交通手段・サービスに、自動運転や AI などのさまざまなテクノロジーを掛け合わせた、次世代の交通サービス) や自動運転などのテクノロジーが入ってきた時に、変わって行く可能性は十分にある。そうした時に、キセラ川西のエリアの価値はこれからもっと高まると思っている。

る。

- ・川西市では地域公共交通会議の一員として関わらせていただいている。ここで出来なかったことは、そこで検討していきたいと考えている。今後も社会情勢の中で併せて行くと同時に先んじるような形でキセラ川西のまちの価値が上がって行くように私自身も努力していきたいと思う。ありがとうございました。

○委員

- ・私自身の関わりとしては、平成 27 年に市民活動のワークショップをさせていただいたのが最初であった。その後、翌年度の平成 28 年度にみどり部会を設置いただき、長らくやって来たつもりでいたが半分しか参加をしていない、遅れて参加させていただいた身である。
- ・市民活動のワークショップは本当に内容の濃いワークショップを私自身も体験させていただいた。公園が出来る前であったが、市民の方々の熱い思いが伝わり、そこから市民の方々が集まって「キセラ・カフェ」という独自の話し合いの場が出来た。
- ・さらに市民からの提案で拠り所となる、元々はなかったパークオフィス「キセラ丸」が出来る事となった。また、「この指トマレ」で、どの様に盛り上げて行こうかという所まで盛り上がった。私も色々な地域でお手伝いをしているが、ここまで市民の力で事が盛り上がり、継続して来た事は珍しいのではないかと思っている。
- ・ガイドラインについても、この様なガイドラインを持っている公園は殆どない。この様なものを作って、積極的に市民の方に使ってもらおうという公園は、全国的にも珍しい素晴らしい公園であると思うので、ぜひ大切にさせていただいて、今後も積極的な働きかけをしていただきたい。
- ・その様な公園であったので、私自身も貢献したいと思い、2つの取組を行った。1つは、学生を連れて子ども向けのプログラムを行った。謎解きプログラムを子どもたちと一緒にいき、謎が解けたら公園で餃子を食べるというものである。参画した学生にとっても凄く良い経験となり、参加した子どもたちにとっても良い機会となった。
- ・もう1つは、一昨年に都市計画学会 30 周年の記念大会をキセラ川西せせらぎ公園の屋外で実施させていただいた。この時は、キセラ川西プラザと公園を一体的に使いながらの行事にチャレンジさせていただいて、多方面の方にご協力いただき実施できたものである。少しでも新しい、施設と公園の一定的な利用という事を提案できたのかな、と思っている。
- ・公園の使い方の可能性は、今後もまだまだ広がっていると思う。これからの期待することは、1つだけで、これまで培って来た、市民が盛り上げて行く公園の活動が、協議会が終わる事によって減らない様に、質的にも益々向上して行く事が希望である。それが公園だけでなく、地域の魅力を向上させることに役立って行けると良いと思う。
- ・協議会がなくなる事で危惧することとしては、2つである。1つはプラットフォームとして、情報共有や自由な意見交換が出来る場としてこの協議会や部会は非常に貴重だった。その機能が無くなってしまいう事に対する代替や継承をどう考えるのかという事である。
- ・もう1つが、モニタリングやマネジメントの機能についてである。効果検証のアンケートも非常に頑張って取っていただいたが、1回取って終わりというのではなく、活動がどの様に展開して行くのか、どの様な課題があるのかをチェックするためにも、定期的にアンケートを取ってデータを集めて行って見えて来るものがあると思う。ガイドラインもこれで完成しもう終わりです、という話ではなく、社会情勢を踏まえて適宜改定して行く必要があるものである。今まで色々な知恵を出

し合いながら、行って来たチェック、モニタリングや改善がどの様な所で担保しながら、より良いものに更新して行くのが課題であると認識している。

- ・ぜひ、その辺りも含めて、今後益々のキセラ川西の発展を楽しみにして行きたいと思っている。ありがとうございました。

○委員

- ・権利者の一人として発言の機会をいただきありがとうございます。この開発の話をもっと最初に聞いたのは平成3年、当時の柴生市長の時代に聞いたのが最初であった。我々にとっては、とんでもない話だという印象を受けて複雑な心境で帰った記憶がある。
- ・それから30有余年あまり経って、このような素晴らしいまちができたのは、関係者のみなさま方のご尽力によってのことであると、心より感謝申し上げあいさつとさせていただきます。

○委員

- ・はじめて参加させていただいた。色々な協議の中で参画出来なかった事は個人的に非常に残念に思う。
- ・このまちづくりの入口は震災後から始まっていたと思うが、その様な歴史も含めてプロセスを見させていただいた後に現地を全て歩いて回らせていただき、非常に外見も含めて景観も良く、最近のまちであるなという印象を受けた。ランドマーク的に公園があり、そこから様々な発信がある印象を受けた。
- ・本当にみなさま方の力を合わせた中で、大変であったと思うが素晴らしいまちが出来たのかなと改めて思う。
- ・今回、資料を改めて見ると、こんな苦労もされていたのか、と気持ちを新たにした。当社として、低炭素という部分については、まちづくりの中では住宅での家庭用燃料電池や総合医療センターのマイクロジェネレーションである所で一部ご協力が出来たのかな、という所であるが、今後も、色々な部分で協力出来る所は精一杯したいと思っているので、今後ともどうぞよろしく願いしたい。

○委員

- ・私自身は年表の前から参加させていただいており、低炭素まちづくりという所から入った。まちづくりのアイデアが積み重なって、何か関連があつて、10年を走りきった。私はみなさんと協力できたのが凄くうれしい。
- ・次に、お願いしたいのは、協議会が解散したら、川西市が残る。他の地域からキセラ川西について視察にも来る方がたくさんいると思うので、ぜひ、川西市の中で語り部をつくっていただき、川西市だけでなく広げないと意味がない。
- ・関西電力なので色々な地域のエネルギープランなどに関わるが、上手く行った地域は3,000人ほどディベロッパーなど色々な方が来られる。良いプラスのサイクルを川西市にまわして欲しい。
- ・それにより川西市の名声がまた広がると良いと思う。せっかくここまで来たのだから、その様に思う。この10年間、楽しい、勉強になる、非常に有意義な時間を過ごさせていただいて、私自身も大変勉強になった。ありがとうございます。

○委員

- ・昨年、前任のものから引き継いだ。オンラインでの会議に1回と本日の会議で計2回の参加で、私自身は殆どお役に立てていないのが現状である。
- ・キセラ川西が出来て、能勢電鉄の乗降客をコロナ前に比べると2割ぐらいは減っている。その中でも最寄り駅の絹延橋駅については1割ぐらいい増えている現状である。
- ・5月8日以降も政府が方針を出したので、キセラ川西のまちがどんどん変わって行くと思う。これを機に川西の魅力発信のひとつに繋がって行き、川西のユーザーが増えて、能勢電鉄のユーザーも増えれば良いと期待している。
- ・協議会以外の場で交通部会の方が昨年、カルタを作りたいので協力して欲しいと尋ねて来られた。また、今度、桜まつりをしたいので協力して欲しい。と、協議会から見えない所で市民の方が動いているのも凄く評価できるのではないかと思います。

○会長

- ・ありがとうございました。乗降客数が増えたのは良いと思う。

○委員

- ・11年間ご苦労さまでした。年表のスタートとなるエコまち研究会は何か環境で議論出来ないか、という所からスタートした。本当に色々な事があった。当初から考えると、立派なまちとなった。事業的によくここまでたどり着いたと思う。
- ・少し振り返ると、2011年は3.11の震災があり、大阪維新の会が躍進し、海外ではアラブの春があった。その後、2015年にCOP21があり、ごく最近になると2020年にパリ協定がスタートし、2021年には国内でも脱炭素社会へ向けて菅首相が日本の温室効果ガス46%削減を表明した。
- ・この10年間はこれで良かったと思うが、これは、ファーストステージだと捉え方をして、せっかくこれだけ良いまちをつくったので、次に2030年までをセカンドステージ、2040年までをサードステージと捉えて、2050年までを、と10年ごとに次のステップに向けてお考えいただくことがよいのではないかと。あるいは10年に1度くらいは、OB会ではないが集まっても良いと思う。
- ・大局的なマネジメントを考えていただければ良いのではと思う。
- ・低炭素まちづくり計画に川西市は国内で第一号であった。同期で小布施町があった。来週の始めにちょうど小布施町に国の適応の関係で行く事になっている。小布施町は小さなまちであるが、今、どうなっているのか、そのあたりの情報も川西市にご提供できればと思う。

○会長

- ・こうして見ると10年の間、非常にきめ細かく、ご支援と非常に前向きな事務局と市の担当の方のご努力下、立派な会議運営と報告書、評価書も出来上がり非常に満足している。
- ・振り返りをさせていただくと、私が川西市に興味を頂いたのは学生時代に川西方式という新しい方式で公共財源を二重に開発者に負担させるインフラ整備の手法で非常に先進的な自治体という事で教えられた。
- ・それ以後、キセラ川西地区に関しては住宅街区整備事業をするのだと、当時のURが研究会を作り、そこで色々と発言させていただいた。
- ・その時、ちょうど世界的には、このようなエリアをブラウンフィールドと言っていた。このブラ

ウンフィールドはまだ地価がそこそこあったが、世界のブラウンフィールドは地価がほぼゼロの所があった。その様な所を再開発して行く事に関わって、今にして思うと見事なグリーンフィールドになって来ていると思う。

- ・これは都市計画事業としては世界に自慢できるブラウンフィールドからグリーンフィールドへという事業だったのではないかと思う。
- ・10年間、PFI事業と低炭素まちづくり計画というモデル事業、エコまち協議会を作った意味合いは、やはりエリアマネジメントをやって行こうという、大きな流れの中で、こういった組織体が出来たのではないかと思う。
- ・意図的にやったかは分からないが3つの要素を上手く合体出来たのではないかと思う。お金が付いて、知恵が集中でき、制度も少し整備されて来た。そのような3つの要素が上手く合わさって、これだけの成果があがったのではないか。
- ・それが、エコまち協議会を解体するにあたり、千里ニュータウンが国のモデル事業だが、立派なインフラが出来て40～60年経過し、地元、豊中、吹田の悩みは既にそれがモデルでなくなった時に、立派なインフラのレベルが標準レベルと違う。他の市民からは、あそこだけエコひきしてという環境が残っていつてしまっている。
- ・つまり、遺産分割をしろという話がいっぱい出てくる。モデル事業として上手く行ったキセラ川西のヘリテージ（遺産・継承物）をどの様に現地化するか、川西市全域に広げて行くのが課題である。
- ・下手をするとヘリテージ（遺産・継承物）が全て壊れて、遺産がなくなった形で終わってしまう可能性もある。モデル事業とは常にそういう危機感を持っている。例えば良くないが、モデル事業で補助金が下りて、制度も特別緩和されるが、元に戻るとレベルが落ちてしまう事がある。
- ・なので、その様な事を克服する上で、モデル事業を現地化する上での努力がこれから、遺産があるだけに非常に頑張っていたいただかなければいけない。
- ・みなさまからこのエコまち協議会の中で、色々貴重なご意見をいただいた方たちもご尽力いただき、川西市あるいは兵庫県全体のレベルアップには是非繋いでいただけるようお願いしたい。ありがとうございました。

○市長からのビデオメッセージ
(略)

○事務局

- ・本日はご議論、振り返りのコメントをいただき、ありがとうございました。
- ・本日、審議いただいた「キセラ川西せせらぎ公園 利活用ガイドライン」の改定については、本日いただいた意見を踏まえ、改定に向けて進めていく。
- ・また、「キセラ川西低炭素まちづくり計画」の評価と今後に向けては、本日いただいた意見を踏まえ、今後速やかに公表するよう進めていく。
- ・最後になりますが、改めて、長きにわたりご指導いただき誠にありがとうございました。以上で、キセラ川西エコまち協議会を終了いたします。